

「ほっと」活用のポイント

- ☑ 生徒自身の自己を振り返る能力の向上を図る取組
- ☑ 日常的な取組の充実による「仲間づくり」

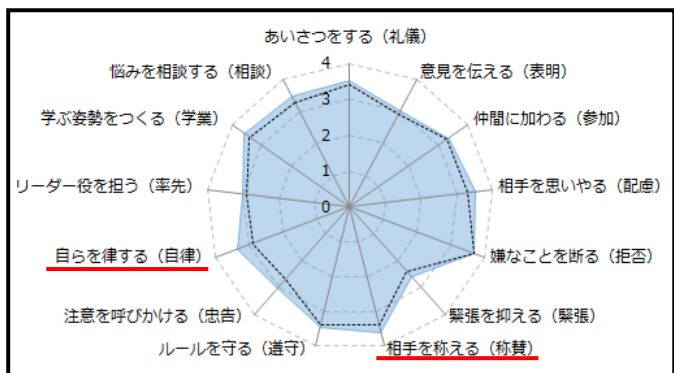
取組の実例

1 「ほっと」による傾向と分析

第1学年の生徒を対象に6月に「ほっと」を実施した。

【傾向と分析】

- ・「自らを律する」の得点が全道平均を上回る
→「自律」の得点が高いことから、学習面においても、自ら学習に取り組むことができるよう、働きかけていく必要がある。
- ・「相手を称える」の得点が全道平均を上回る
→「称賛」の得点が高いことから、友人間だけではなく、学年全体でよりよい人間関係を構築していく必要がある。



2 分析結果に基づいた取組

学校生活において、授業に臨む姿勢ができていなかったり、場に応じたあいさつや返事ができていなかったりする生徒が見られることから、「自らを律する」の得点が全道平均と比較して高い傾向を踏まえて、教育相談で一人一人にアドバイスをを行うなど、生徒が目指す姿を様々な場面で示して評価する機会を設けた。

また、小学校の頃から仲のよい友人同士の交流が多い様子が見られたことから、「相手を称える」の得点が全道平均と比較して高い傾向を踏まえて、当番活動の協働体制を工夫するなど、今までに接したことのない生徒同士の交流を積極的に図り、一人一人が自分の役割を果たすために行動する機会を設けた。

3 取組の成果

- 生徒がICT端末を活用して「振り返りシート」を記入したことにより、効率的に集計することができた。
- 各教科での授業や様々な活動において、目指す姿を示し、自己を振り返る場面を継続的に設けた結果、生徒は自身の課題をしっかりと捉えることができるようになった。
- 様々な場面で、生徒同士が目的意識をもって活動できるよう指導したことにより、生徒が他の生徒一人一人の頑張りを目にする機会が多くなるなど、他者理解力の向上につなげることができた。11月に実施した「ほっと」でも「相手をたたえる」の得点が0.1点上昇した。

「ほっと」活用のポイント

- ☑ 「ほっと」と「アセス」の併用による多面的な実態把握
- ☑ 一人一人の生徒が仲間から認められる機会による「居場所づくり」

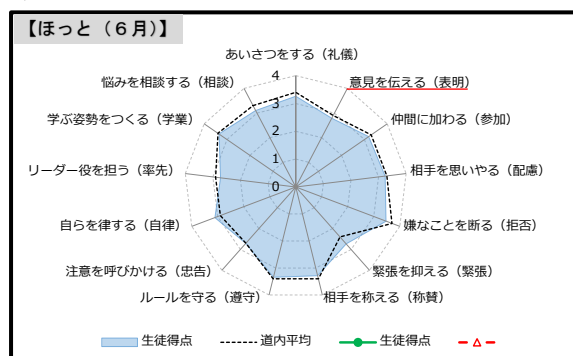
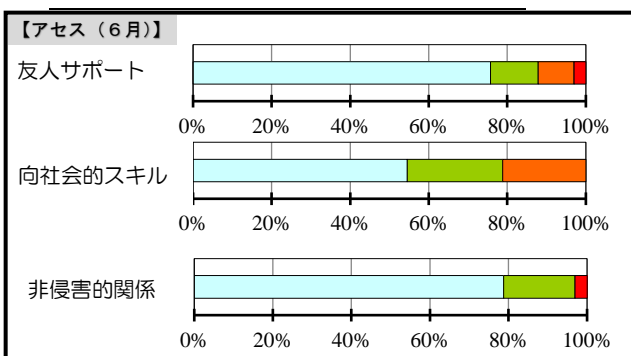
取組の実際

1 「ほっと」による傾向と分析

第1学年の生徒を対象に6月に「ほっと」及び「アセス」を実施した。

【傾向と分析】

- ・実態把握の結果より、「アセス」では、「友人サポート」「向社会的スキル」「非侵害的關係」の適応領域において、多くの生徒が適応領域にあるものの「向社会的スキル」の領域が低い傾向にあり、「ほっと」との併用から「意見を伝える（表明）」の低さに要因があることが分かった。
→ 自信をもって意見を伝えることを苦手とする生徒が多い。



2 分析結果に基づいた取組

「意見を伝える（表明）」の得点が全道平均と比較し低いことから、各教科等の授業において、生徒相互の対話的な学びを充実させるなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図った。

各学級で、生徒がお互いの頑張りを日常的に見付け合う活動を行い、一人一人の自己肯定感・自己有用感の高まりを図った。

地域でのボランティア活動を生徒会活動の一環として推進し、地域の方から認められる機会を拡充させ、自己肯定感・自己有用感の高まりを図った。

3 取組の成果

- 生徒がICT端末を活用して「振り返りシート」を記入したことにより、効率的に集計することができた。
- 10月に実施した第2回「アセス」では、第1回と比較し、「友人サポート」「向社会的スキル」「非侵害的關係」の領域において、適応領域に属する生徒の割合が1～2%増加し、生徒の自己存在感を高めることができた。